

# 平成29年度事業報告

## 社会福祉法人 尼崎武庫川園

### 1 平成29年度事業総括

平成29年度は、法人が抱える様々な課題について中長期的に解決の道筋を検討するべく、マスタープラン策定委員会を設置した。課題の整理と現状の把握を目指して平成29年9月から平成30年3月にかけて5回開催した。また、重点事項としていた広報部門の充実について、広報委員会を立ち上げた。取り組みとして、公募による法人ロゴマークの決定、就職フェア等への積極的な参加とプレゼン資料作り、法人ホームページの更新に伴う業者選定などを実施した。

次に、法人を取り巻く経営環境について、武庫アルテンハイムの経営状況は短期的な改善が難しく、引き続き各事業所の収支を本部に集約することで、資金の移動の柔軟性を担保しながら本部からの繰入金で運転資金を確保する形となった。法人全体の収支としては、障害福祉サービス事業所が概ね堅調に推移しており、特に障害者支援施設は入所者の確保と職員配置のバランスを保ちながら一定の収益が確保され、必要な設備の更新等を随時行った。第二次補正予算にて、新館（松の園・カトレアの園・第1松の園）の空調設備の更新のための積立金をカトレアの園拠点区分にて行った。各事業所でのご利用者の増員や出勤率の向上、障害支援区分の上位変更など収入増に係る取り組み及び法人全体の光熱水費について、電気・ガス等の契約内容の見直し、地下水活用事業の推進による節減努力を行った。

人材育成の取り組みの一環として、法人研修を年間通して行った。新任から経験年数や役割等に応じた体系的な研修内容を目指し、研修目的を明らかにしながら計画的に実施するよう努めた。今後も職員のキャリア形成の一助となるよう徐々に整備を行っていく。また、地域における公益的な取組の一環として、法人内各事業所のサービス内容やアピールポイントを事業所ごとに個性豊かに発表を行う「事業所説明会」といったオープン研修も実施し、職員間の共通理解を図りつつ、地域の皆様にも知っていただく機会とした。ご家族様を始め、地域の皆様や特別支援学校関係者等、多数の参加をいただいた内容となった。（参加人数等は下表参照）

尼崎市による公有財産の貸付料見直し施策については、平成30年4月としていた実施が一年間見送られた。平成30年1月から個別の協議が進められ、当法人も2月8日に協議を行った。その中で経過措置として5年間の猶予期間を設けたのち、有償化とする案が示され、猶予期間中も協議は継続して行うことを確認した。法人としても現在の財務状況や福祉業界を取り巻く厳しい環境について言及するとともに、今後も尼崎市への協力と尼崎市民である多くのご利用者へのサービス提供に努めることを表明し、引き続き誠実に協議していくことを確認した。

## 2 職員配置

常務理事 施設長兼務	施設長	事務員 施設事務兼務		
1	5	3		

30年3月31日現在

## 3 法人主催研修

実施日	研修名	各施設等参加者						
		松の園	カトレア	アルテン	リーブ	2松	1松	地域等
4月22日	就業規則について	1	2	1	0	1	0	
5月25日	サビ管研修	2	2	0	2	1	2	
5月23日	勤怠管理について	2	2	2	2	2	2	
6月22日	防災・リスク研修	2	2	2	2	2	2	
7月1日	接遇・マナー研修	5	2	1	10	6	9	
8月19日	チームマネジメント	1	2	2	2	1	3	
10月21日	人権研修	3	4	2	4	3	8	
11月8日	サビ管ブラッシュアップ	2	1	0	0	1	2	
12月8日	接遇・マナー研修	5	3	1	2	1	6	
1月20日	チームマネジメント	1	2	2	2	1	3	
2月17日	自閉症事例検討会	12	3	0	9	5	8	4
3月17日	事業所説明会	10	3	5	4	8	10	25

#### 4 年間行事

月	日	行 事 内 容
4 月	3 日	辞令交付式
6 月	8 日	理事会 (新役員候補の選任・事業報告・監事監査報告、決算報告・定款の一部改正・報酬及び費用弁償規程の一部改正・経理規程の一部改正・情報公開規程の制定)
6 月	27 日	評議委員会 (新役員候補の選任・事業報告・監事監査報告、決算報告・定款の一部改正・報酬及び費用弁償規程の一部改正・経理規程の一部改正・情報公開規程の制定)
9 月	12 日	理事会 (第一次補正予算・定款細則の変更)
9 月	26 日	評議員会 (第一次補正予算・定款細則の変更)
10 月	7 日	尼崎武庫川園祭の開催
12 月	12 日	理事・評議員意見交換会
3 月	13 日	理事会 (第二次補正予算・平成30年度事業計画・平成30年度当初予算・就業規則等の一部改正・育児介護休業規程の改正・運営規程の一部改正)
3 月	27 日	評議員会 (第二次補正予算・平成30年度事業計画・平成30年度当初予算)

# 松の園

## 1 平成 29 年度事業総括

29 年度は、男性 22 人、女性 23 人、計 45 人満床でのスタートであった。利用率は毎年 96% 台を維持しており、短期入所の延べ日数は 113 日で前年の 69%、日中一時は 70 時間で、前年の 230% のご利用があった。

ご利用者の平均年齢は 52.3 歳で、それぞれのライフステージに応じて豊かに暮らしていただけることを目指している。高齢化の対策として、食事時、入浴時、休日の職員配置を増員したことで、手厚い支援がおこなえている。また、機能訓練やリハビリにも十分な時間をかけており、施設入所では運動不足になりがちだが、少しの時間でも散歩に出るなど、生活の中で身体を動かすことを常に意識してきた。

同時に職員には高齢知的障害者の特性を理解し、不適切な支援につなげない知識とスキルを身につけるべく、昨年同様研修に積極的に参加させた。医療面では内科医、精神科医、耳鼻咽喉科医、歯科医の定期的な往診で体調を管理し、病気の早期発見に努めている。誤嚥性肺炎や転倒が増えており、入院加療が必要な方もおられ、知識やスキルの底上げが必至だと痛感している。病気が重症化しないためにも、日々の暮らしの中での小さな変化を見逃さないことが大切だと感じている。

朝礼時に支援に関する本の読み合わせは 3 年間続けており、職員の知識と意識が定着してきた。また、週に 1 回の全職種が参加する支援会議で支援に一貫性を持たせ、職員間で個々の利用者の様子を共通理解していった。話し合わせ決定したことは、周知され支援計画に反映させるシステムとなっている。ほのぼののソフトの導入で、記録等の事務が効率的になり、ご利用者に向き合える時間も増えていった。

五感を適度に刺激する環境を設定し、感覚を統合する「スヌーズレン」は理学療法士が中心となり、リラックスした空間の中でご利用者のストレスや疲労が軽減できている。音楽セラピーやフラダンス、ヨガはボランティアの方々力を借りて、充実した余暇を過ごしていただいている。

日中活動の基本となっている生産活動の収益は 142 万円で、前年を 18 万円下回った。日中活動のメニューが豊富になり、作業以外の活動を選択できる機会が増えたことが第一の原因と考える。工賃は生産活動収益に見合った支給となっており、平均 3 万 1 千円（年間）を支払った。ご利用者には、体力や特性に応じた配慮をしたうえで、「労働の対価を得る」という喜びを実感していただいている。

ご利用者のプライバシー確保のため、また、ひとりの時間を大切にいただけるよう、多床室（2 人部屋）にパーテーションを設置し、可能な範囲で個室化をすすめている。採光や空調の加減を考慮し、次年度も引き続きおこなう。

## 2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師	栄養士
1	1	1	1	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤	嘱託医 内科、精神科、歯 科、耳鼻咽喉科	ボランティア グループ 1 個人 3
1	14（4）	3	4	

30年3月31日現在

## 3 内部・外部研修

	研修日	研修内容	参加
外	4月8日	知的障害者 支援の基礎知識	1
内	4月19日	法人の理念・社会福祉の歴史・就業規則	1
内	5月17日	サービス管理者研修	2
外	6月3日	自閉症 e サービス 初任者のための実技講習	1
外	6月7日	食中毒予防講習会	1
外	6月10日	スヌーズレンの理念とオープンゴール	1
外	6月11日	クリニカルアート講座	1
外	6月25日	ミュージックセラピー①	1
内	6月26日	腰痛予防・介護技術研修①	1
内	7月1日	接遇研修	5
外	7月6日	ミュージックセラピー② 実習	1
外	7月19日	虐待対応力向上研修 共通講座	1
外	7月22.23 日	自閉症 e サービス 初任者のための自立課題	1
内	7月24日	腰痛予防・介護技術研修②	1
外	7月24日	社会福祉援助基礎研修 Aコース①	1
外	7月30日	ミュージックセラピー③	1
外	8月10日	虐待対応力向上研修 共通講座	1
外	8月17.18日	対人支援職の為のセルフケア	1
外	8月18日	社会福祉援助基礎研修 Aコース②	1

内	8月19日	マネジメント研修	1
外	8月23日	成年後見制度の基礎と実践を学ぼう	1
外	8月29.30日	相談面接技術研修 初級	1
内	9月1日～	新入職員OJT	1
外	9月4日	自閉症eサービス 服薬調整の実務	1
外	9月19日	OJTリーダー養成研修（実践編）①	1
外	9月21日	自閉症eサービス 基礎講座①	2
外	9月26日	応用行動分析学に基づいた行動の理解と支援方法①	1
外	9月30、1日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1
外	10月5日	自閉症eサービス 基礎講座②	2
外	10月14.15日	自閉症eサービス 評価セミナーB	1
外	10月14.21日	アサーション研修	1
外	10月17日	応用行動分析学に基づいた行動の理解と支援方法②	1
外	10月21.22日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	1
内	10月21日	人権擁護研修	3
外	10月26日	自閉症eサービス 基礎講座③	2
外	10月27日	虐待未然防止研修	1
外	11月1、2日	スーパービジョンとメンタルヘルス	1
内	11月8日	サービス管理者研修②	2
外	11月10日	OJTリーダー養成研修（実践編）②	1
外	11月13日	苦情解決セミナー	1
外	11月16日	自閉症eサービス 基礎講座④	2
外	11月17日	読みやすい記録・伝わる記録の書き方	2
外	12月6日	施設と地域が取り組む高齢化対策	1
外	12月6日	社会福祉援助基礎研修 Bコース①	1
内	12月8日	接遇研修	4

外	12月15日	社会福祉援助基礎研修 Bコース②	1
外	12月18, 19日	強度行動障害支援者養成研修(実践)	3
外	1月12日	虐待防止・職業倫理・法令順守研修	2
外	1月16日	虐待対応力向上研修 基礎講座	1
松	1月18日	高齢知的障害者について	16
外	1月19日	職業倫理と権利擁護研修	1
内	1月20日	チームリーダー研修	1
外	1月29, 30日	西宮市相談支援従事者初任者研修	1
外	2月5日	虐待対応力向上研修 応用コース	1
外	2月5日	西宮市相談支援従事者初任者研修	1
外	2月6, 7日	西宮市相談支援従事者初任者研修	1
内	2月17日	自閉症事例発表会	11
内	3月1日～	新入職員OJT	1
外	3月5日	高齢障害者ケアマネジメント研修	2
外	3月6日	高齢知的障害者の対応	3
外	3月11日	スヌーズレンの基礎講座	2
外	3月11日	発達障害連続講座 暮らしが変わる時のサポート	1
外	3月17日	自閉症eサービス 実践報告会	1
外	3月17日	事業所説明会	8

#### 4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	3～8	花見(北山緑化植物園)	45
4月	26	春季健康診断	45
5月	29	ボーリング大会	43
6月	1～9	荒牧バラ公園	45
6月	4	地域清掃	2

6月	12～13	東京ディズニーランド	43
7月	10	七夕会	45
8月	2～23	夜間外出 エキスポニフレル・水上バス 野球観戦・神戸クルージング	45
8月	31	夏祭り（縁日・盆踊り）	45
9月	16	松の園フェスティバル	45
9月	28	食事会（スタミナ太郎）	45
10月	7	武庫川園フェスティバル（中止）	45
10月	18	ボーリング大会	45
11月	11	市民福祉の集い	42
11月	22・29	日帰り旅行（須磨）	45
12月	7	食事会（スタミナ太郎）	45
12月	10	地域清掃	2
12月	20	クリスマス会（アルカイクホテル）	45
1月	9～12	広田神社初詣	38
1月	20	新年会 餅つき大会	40
2月	2	節分 豆まき	45
2月	15	手塚治虫記念館	45
3月	1	食事会（スタミナ太郎）	45
3月	14	ボーリング大会	32
3月	1～23	買い物外出	32

毎月の行事

- ・誕生会 ・理美容 ・血圧体重測定 ・音楽セラピー
- ・フラダンス教室 ・ヨガ体操 ・おやつ作り ・ランチ作り
- ・内科検診 ・精神科往診 ・オーラルケア（毎週）
- ・耳鼻科検診（年2回）



## 5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	121.569
5月	120.717
6月	116.485
7月	126.144
8月	90.000
9月	145.721
10月	100.184
11月	132.192
12月	126.938
1月	105.614
2月	109.350
3月	127.793
合計	1.422.607

# カトレアの園

## 1 平成29年度事業総括

29年度は入所者46名通所者12名でスタートした。入所からグループホームへ1名移行、医療的ケアが必要になり他施設へ1名移行された。新たな入所者については獲得できていない。

日中活動において、ご利用者の高齢化と重度化に伴い、メニューの見直しを検討する年度として位置付けた。

介助度が増す中、作業中心に行ってきたこれまでの形や時間帯では職員配置が充分ではない部分が出ている。カトレアの園の特徴であった紙加工品の仕上がり数も減り、工賃支給額も年々減少している。ご利用者・職員へのアンケートを行った結果、余暇活動やレクリエーション・リハビリ等のご要望が多く、集団・個別支援など様々な形のメニューとして再編を検討する必要がある。

行事や旅行はご利用者が主体となり、自治会や実行委員会での会議を通じて、内容の検討や当日の運営が行えるよう支援した。

事故報告や、出来事報告のケースについて、早急に検証を行い、具体的な対策を検討した。障害特性が起因したケースもあり、専門職を交えて環境の整備や介助内容の改善を行った。

介護用ソフトを導入し、業務の効率化と情報の共有の強化を図った。

1名の方がグループホームへ移行され、移行後もサービスの調整や、生活面での課題を伺いながら、支援を行った。

介助技術の向上のため、外部研修を位置付け、新任職員には基本的な福祉機器研修、中堅にはステップアップ研修などキャリアを意識した研修参加を行った。

## 2 職員配置

施設長	事務員	サービス管理責任者	看護師	栄養士
1	1	1	2	1
理学療法士	支援員 常勤（内嘱託）	支援員 非常勤	清掃・運転 非常勤	
2	30（8）	3	5	

30年3月31日現在

## 3 外部・内部研修

実施日	研修名	参加人数
5月7日	新人職員研修	1名
6月9日	勝ち残る社福になる為に	1名
6月10日	スヌーズレンセミナー	1名

6月24日	介護技術ステップアップ研修	1名
6月29日	食中毒予防研修	1名
7月7日8月4日	組織管理者研修	1名
8月10日 9月22日 1月16日	障害者虐待対応力向上研修	6名
9月1日 8日	リフト、スリングの使い方	4名
9月9日 10月21日 11月7日	セーフティーケアセミナー	2名
9月27日 10月13日 11月1日	福祉経営のビジョン・戦略作り	1名
9月28日	チームアプローチ実践研修	1名
10月12日	施設ケアにおけるリフトを使った 個別支援のノウハウ	1名
10月12・13日 11月10日 12月11日	介護技術ステップアップ研修 リーダー養成編	2名
1月27日	誤飲性肺炎の予防とケア	1名
2月23日	サービス管理責任者ブラッシュ アップ研修	1名
2月23日	ポジショニング研修	2名
3月2日	権利擁護推進フォーラム	1名

#### 4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	7日	花見	55名
6月	23日	春季健康診断	55名
7月	14日	スポーツ大会	55名
8月	11日	かき氷大会	28名
9月	15日29日	日帰り旅行	12.11名
10月	7日	武庫川園祭り	49名
	26日	日帰り旅行	13名
11月	10日	日帰り旅行	11名
12月	22日	クリスマス会	55名
	29日	おでんバイキング	35名

2月	16日	音楽の会	30
----	-----	------	----

### 5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	4,340
5月	5,050
6月	7,400
7月	4,750
8月	3,394
9月	8,380
10月	11,490
11月	14,670
12月	67,220
1月	10,838
2月	4,540
3月	9,840
合計	151,912(前年比▽74,767)

# 武庫アルテンハイム

## 1 平成 29 年度事業総括

平成 29 年度は、年度当初に小火があり、不審火かどうか分からないまま 1 年が始まった。厚生労働省の「地域医療介護総合確保基金」を用いた「特養多床室のプライバシー保護のための改修等による介護サービスの改善」を活用し、20 名分の居室（多床室 5 室）に対してプライバシー保護（個室化）に取り組む予定で予算確保もしたが、兵庫県の個室化にかかる要件に合わず断念した。「暮らしの場」として、特養の生活環境を整備しようとしたが残念ながら実現できなかった。

平成 29 年度の特養稼働率 83.9%（最大 53 名）（前年度 78.9%：最大 52 名）、短期入所稼働率 27.1%（前年度 63.0%）であった。前年度の短期入所稼働率は、虐待対応で緊急保護した長期利用者がいたことで、数字としては大きく伸びた。その利用者が入居されたことで、今年度の短期入所稼働率は数字が落ちる結果となった。ただ、ここ 3 年、土日も事務所が電話や訪問時に対応できる体制をとったことが、居宅介護支援事業所に対して周知でき、飛び込みの利用相談に応じることが増えた。そのことで、年度末の特養と短期入所の稼働率増につながった。

前年度に引き続き、今年度も水周り（特に共用部分の洗面所当）の経年劣化による配管取替え、ランドリーの主軸や排水・給水管の交換が起こった。設備に対する修繕費は、引き続き重要案件となっている。

## 2 職員配置

施設長	事務員 非常勤	介護支援 専門員	看護師	栄養士
1	2	1	3	1
理学療法士 非常勤	介護職員 常勤（嘱託）	介護職員 非常勤（生活支援）	清掃業務 非常勤	生活相談員
1	18（6）	12（3）	1	1

30 年 3 月 31 日現在

## 3 内部・外部研修

実施日	研修名	主催	参加者
6 月 30 日	老人福祉施設新任職員研修	兵庫県老人福祉事業協会	2 名
5 月 23 日	特別養護老人ホームの看護職員の役割	阪神ブロック看護部会	1 名
6 月 19 日	第 1 回顔の見える研修会	甲東甲陽園地区在宅療養相談支援センター	1 名
8 月 21 日	ケアプラン基礎研修会	兵庫県老人福祉事業協会	2 名
7 月 24 日 8 月 8 日	社会福祉援助基礎研修 A コース	兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修所	1 名
7 月 22 日	看護師のクリニカルラダーの理解と自己の看護実践能力向上へ	阪神ブロック看護部会	1 名

	の活用		
6月22日	防災・リスク	法人内研修	1名
5月17日	感染対策に関する最近の話題	東阪神院内感染症研究会	2名
8月26日	介護支援専門員実務研修受講試験対策模擬試験	兵庫県老人福祉事業協会	1名
9月14日 他4日	兵庫県相談支援従事者初任者研修	総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究会	1名
7月24日	ノーリフト、腰痛予防とケアの質	法人内研修	2名
2月20日	阪神ブロック老人福祉施設給食担当職員部会	阪神ブロック老人福祉施設給食担当職員部会	1名
3月10日	多職種協働勉強会	阪神ブロック看護部会	2名

#### 4 年間行事

外出行事の参加は、高齢化と介護の重度化で偏りはあるが、施設内行事への参加は離床の出来る多くの利用者の方々に参加してもらうことが出来た。

月	行 事	
4	花見昼食会	48名
	ミニ外出（桜花見、車窓観桜会）	9名
5	端午の節句会（マグロの解体ショー）、菖蒲湯入浴 こばと聴覚特別支援学校運動会参加、コンビニ外出	42名
6	外出行事（ららぽーと甲子園）×2回	8名
	日帰り遠足（ららぽーとエキスポシティ）×2回	8名
7	七夕会（アンサンブルレインボー大正琴）	45名
	コンビニ外出×3回	6名
8	夏まつり	47名
	コンビニ外出×3回、食事外出（イオン伊丹昆陽）	10名
9	敬老会 こばと聴覚特別支援学校敬老訪問	38名
	コンビニ外出×1回 ※雨天のため2回中止	45名
10	武庫川園祭り、食事・外出（イオン伊丹昆陽）	52名
	こばと聴覚特別支援学校秋の集い、	4名
11	ミニ外出（コスモス見学）×3回 ※2回喫茶あり	16名
12	・クリスマス会 ・ゆず湯入浴 ・大晦日紅白歌合戦鑑賞	44名

1	新年会	45名
2	節分会 手作りおやつクッキング	53名

# 第2松の園

## 1 平成29年度事業総括

29年度、第2松の園では芦屋特別支援学校から1人の新卒業生と利用契約し、43人でスタートした。1日の平均利用者数は34.3人、定員35人に対して98%の利用率であった。前年度に比べ0.3%減少したのは、出勤率の高かった女性利用者が9月に退所されたことが影響している。さらに年度末の3月には男性利用者1名が他法人の施設へ移っていかれた。

生産活動に関しては、今年度も営業の窓口として目標工賃達成指導員を配置し、ジョブステーション西宮から単独では受注できない多くの仕事を請け負うことができた。また、西宮市上下水道局より、引き続き水道メーター解体作業を請け負うことができた。

作業種が豊富にあることで、障害の程度や種類に応じた作業を提供することが可能となり、利用者1人ひとりが様々な経験を積み、スキルアップに繋がっている。

また、武庫アルテンハイムの清掃も10年目を迎え、経験知だけでなく、清掃作業に対する強い責任感をもつことができた。

職員体制については、異動・退職等により、車を運転することができない職員が多くなったため、職員の休みが重なった場合には配置を整えることが困難となった。第1松の園も同様の問題を抱えていたため、運転業務中心のパート職員1名を7月に雇用し、両園乗り合いの送迎車を運転してもらい、給与も両園で按分している。送迎以外では、生産活動の出入荷業務に充て、人件費の削減と、生産活動の幅を大きく向上させることができた。

第2松の園の建物が築31年となり、エアコンからの水漏れや冷暖房の効きの悪さが目立ってきたため修繕することとした。当初は屋上設置の空冷ヒートポンプ本体から、各部屋のエアコン総入れ替え工事の予定であったが、業者による検査の結果、本体の入れ替えと、故障した吹き出し口の交換、冷暖房の効きの悪さは配管洗浄で解決することによって工事を終えることができた。結果、工事費用は当初の三分の一で済み、冷暖房の効きも改善され、利用者・職員ともに快適な環境で仕事をする事ができている。

## 2 職員配置

施設長	事務員	サービス 管理責任者	生活支援員	目標工賃 達成指導員
1	1	1	1	1
職業指導員 常勤（内嘱託）	職業指導員 非常勤			
5（2）	3			

30年3月31日現在



### 3 外部・内部研修

実施日	研修名	参加人数
4月29日	新任者研修	1
5月17日	サビ管研修	1
5月23日	勤怠管理研修	2
6月22日	防災リスク研修	2
7月1日	接遇研修	6
8月19日	チームリーダー研修	1
10月21日	権利擁護研修	3
10月27日	虐待未然防止研修	1

### 4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	6	お花見&お食事会	37
	21	保護者見学会	17
	26	春季健康診断	40
5月	11	買い物実習（男性1班）	9
	18	買い物実習（女性）	20
	25	買い物実習（男性2班）	9
	29	買い物実習（男性3班）	3
6月	9	日帰り旅行（伊賀）	38
	17	手作りおやつ（パフェ）	30
7月	12	社会見学（インスタントラーメン博物館）	38
8月	5	カラオケ	25
	25	2松夏祭り	50
9月	9	スポーツ大会	40
	30	手作りおやつ（焼きそばパン）	26
10月	7	武庫川園祭り	中止
	20	BBQ大会	49
11月	2	日帰り旅行（和歌山）	39
12月	21	クリスマス会	62

	28	大掃除	35
1月	4	新年会	29
	6	書初め大会	23
2月	2	節分会	36
3月	3	ひな祭り撮影会	30
	31	手作りおやつ（フレンチトースト）	27

#### 5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	213,960
5月	268,635
6月	260,080
7月	296,552
8月	283,738
9月	279,628
10月	283,454
11月	292,342
12月	280,316
1月	211,687
2月	254,672
3月	240,384
合計	3,165,448

# リーブ・フルーリー

## 1 平成29年度事業総括

平成29年度は8月に女性利用者が1名退所となり9月に法人内通所の利用者から1名が入所され、その後入所は満床で推移した。生活介護事業における年間の平均利用者数は48.0人であった。短期入所については、法人内通所利用者の緊急的なロングステイの状況もあり、延べ利用者数が1,199人で対前年比25%増であった。

28年度から2年計画で取り組んでいる利用者の高齢化による介護体制の強化について、介護度が高くなっている女性利用者の浴室・更衣室等への介護リフト導入を行った。あわせて、腰痛予防や機器の使用方法に関する研修及び個別の利用者の使用マニュアルの作成を行い、安全に移乗介助を行うための体制を整え、利用を開始した。

利用者の生活面では、前年に引き続き外出活動を活発に行った。本人の嗜好やライフステージにできるだけ合わせ、小グループで出かけていく「選択外出」や近くのコンビニへちょっとおやつを買いに行く「ふらっと外出」、毎月1回日用品の買い出しと昼食を兼ねて出かける「お買い物の日」など、利用者の皆さんは生き生きとした表情で出かけられていた。

医務面では、ほとんどの利用者のご自身の不調を訴えることが困難なため、各種健診による早期発見に努めた。これまで検査が難しかった視力低下や高齢化に伴う、白内障の症状が発見でき、数名の方が回復手術を受けることができた。また、定期健診では血中脂質異常の方が増え、加齢や運動不足について医師の指導の下、適切な食事量の見直しや適度な運動療法を実施すること等、改善に向けた努力を行った。

## 2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管 理責任者	看護師	管理栄養士
1	1	1	2	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤		
1	22（4）	6		

\* 育児休暇中常勤支援員 1

30年3月31日現在

## 3 内部・外部研修

<外部>

実施日	研修名	参加人数
4月10日	自閉症実践報告会研修	1名

5月15・30日	チームマネジメント研修	1名
6月7日	29年度給食施設研修	1名
9月21日	ななくさ育成園公開講座	2名
9月28日	チームアプローチ実践研修	1名
10月21・22日	強度行動障害支援者養成 基礎	5名
11月29日	セーフティケアを考える会 2017	1名
1月4日	強度行動障害支援者養成 実践	2名

<内部>

実施日	研修名	参加人数
4月25日	介護技術研修	8名
6月26日	腰痛予防・介護技術研修	6名
7月24日	ノーリフト研修	9名
8月30日	権利擁護研修	6名
9月25日	中堅職員OJT研修	4名
2月27日	自閉症・構造化について	12名

4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	4～7	花見	50
	17～28	春季健康診断	50
5月	19	運動会	50
6月	2.9.16	日帰り旅行（大阪方面）	50
7月	21	夏祭り	49
通年	1～2回 ／月	選択外出	50

9月	14	BBQ大会	49
10月	7	武庫川園祭	50
	26・27	一泊旅行①（福井方面）	15
	28	西宮市民祭	4
11月	8～9	一泊旅行②（福井方面）	15
	20	日帰り旅行（三田方面）	20
12月	10	わがまちクリーン（地域清掃）	3
	22	クリスマス会	50
1月	23	新年会	50
2月	3	節分会	50
3月	23	缶元祭	50
	29	ケーキデコレーション大会	50

# 第1 松の園

## 1 平成29年度事業総括

「生活介護」と「就労継続B事業」の「通所多機能」を利用し、ご利用者のニーズに合ったメニューをご利用者自身が選んで参加するということを大切にして運営することができた。その中で工賃規定の策定やグループ旅行・作品展を行ってきた。

ご利用者の高齢化などによって、ご本人やご家族の病気やけがで1~2か月の長期休園が起り、登園率に大きく影響した。しかし「治ったらまた1松に来たい。」という願いを強く持っていただいております、再通園されている。また、法人内相談事業や入所施設との連携などで緊急時をしのぐことができた。しかし、急な対応に追われることが多かったので、今後は見通しを持って対応できるようにご家族とも協力していきたい。

また、相談支援事業とタイアップして見学・体験の受入れ5名を行い、3名の新利用に結びついた。

「生活介護」事業では個別のニーズに合わせて、補助具を使った「生産」や「創作」「余暇」「健康」などに取り組んだ。特にインスリンの自己注射の必要な利用者を初めて受入れ、健康に更に気を配る支援を行った。「就労継続B型」事業利用の方は、毎日の仕事の中での充実感と工賃向上に取り組み、それを反映する工賃規程を作ったことで、一人平均5600円となり、今年度報酬単価に反映している。

職員の接遇向上と不適切な支援を行わない取り組みを研修と日々の朝礼・委員会活動で行った。利用者の活動中の笑顔と合わせて職員の支援場面を広報に入れるなど、引き続き取り組みを行っていききたい。

安全について、出来事の報告など情報共有をして改善につなげているが、2月には、利用者の不穏状態が高じてしまい階段から落ちるのを止めようとした職員が転落するという労災事故を起こしてしまった。改善のために継続して検証し、今後は、ヒヤリの時点で改善し、大きな事故の予防ができるように職員の意識した取り組みを作っていきたい。

## 2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師 パート	栄養士
1	1	1	(1)	0
理学療法士 非常勤	支援員 常勤(内嘱託)	支援員 非常勤		
0	9	3		

30年3月31日現在

## 3 外部・内部研修

実施 日		研修名	参加人数
5月	15・30	チームマネージメントリーダー研修	1
6月	27	障害者虐待対応力向上研修	1
7月	7	新任職員OJT担当者研修 基礎編	1
	13	地域生活援助者バージョンアップ養成講座	1
		てんかん基礎講座	1
	26	相談面接技術研修 中級1回目	1
8月	9	相談面接技術研修 中級2回目	1
	10	障害者虐待対応力向上研修	2
9月	19	OJTリーダー養成(実践)①	1
	13	甲山福祉センター見学	1
10月	21・22	強度行動障害支援者養成研修(基礎編)	1
11月	1・2	スーパービジョンとメンタルヘルス	1
	10	OJTリーダー養成(実践)②	1
12月	18・19	強度行動障害支援者養成研修(実践編)	1
	21	障害者の意思決定支援	1
1月	31	対人支援職のためのセルフケア①	1
	31	西宮市障害者相談支援従事者公開講座	1
2月	1日	対人支援職のためのセルフケア②	1

#### 4 年間行事

月	行事内容	人数
4	花見	4 4
5	定期健康診断 昼食会	4 4
6	日帰り旅行	4 5
7	七夕作品展	5 0
8	1 松夏祭り 家族交流会	4 5
9	スポーツ大会	2 5
1 0	武庫川園祭り（雨のため屋内管弦楽鑑賞）	4 2
1 1	日帰りグループ旅行（西宮市民祭り）	3 7
1 2	クリスマス会	4 1
1	新年会	4 2
2	個人懇談・節分 西宮市作品展	4 6
3	ひな祭り・クラブ活動発表会	4 4

毎月 誕生会

#### 5 月別生産活動収益

4月	1 4 3 6 7 0
5月	1 2 5 3 7 0
6月	1 4 3 3 7 0
7月	1 4 9 4 0 7
8月	1 3 4 4 8 7
9月	1 5 4 8 0 4
10月	1 7 4 2 1 8
11月	1 6 9 2 2 4
12月	2 0 4 6 7 9
1月	1 3 0 7 4 8
2月	1 6 3 0 9 9
3月	1 7 4 3 8 9
計	1 8 6 7 4 6 5



# こころ&つばさ

## 1 平成29年度事業総括

男性4名のご利用者は変化なくご利用が続いている。  
女性は1名が一人暮らしに移行された。一人暮らしへの移行は、共同生活援助の事業を始めて2人目になる。またカトレアの園から1名が入所された。この方は長年施設生活を続けてこられていたが、カトレアの園での自立支援の取り組みの中で、地域生活への意欲が高まり、学習を重ねながら準備してこられた。現在は家族の方もご本人の変化を喜んでおられ、ご本人も毎日が楽しいと話されている。  
その他のカトレアから移行されたご利用者も相談支援員の支援を受けながら、ご自分に合った日中の活動場所を探したり、地域での活動の幅を広げておられる。

支援員の確保は年間通じての課題であったが、地域の民生委員さんとのつながりから、集会に呼んでいただき「こころ&つばさ」の活動をアピールすることで、1名スタッフを確保することができた。

女性のグループホームは障害支援区分の平均値により、スプリンクラー設置が義務化され、宝塚の補助金を利用し、3月に工事を完了した。今後安全面を考え、男性のグループホームでの設置も検討したい。

## 2 職員配置

管理者	サービス管理 責任者	支援員 非常勤
1名	1名	10名

30年3月31日現在

# 相談支援事業所 かがやきステーション

「計画相談」が入っていない法人内利用者について、緊急な人から相談に入ってきた。

その中で、家族の入院・怪我などで在宅生活が困難になられた利用者の計画を立て、法人内のショートステイ事業と連携し、生活保障の安心に役に立つことができた。また、ご家族の高齢化で、家族が支援してきたことを、地域支援事業所を利用した支援につなげ、生活の質を保ってきた。

更に本人の病気で長く園を休まざるを得ない利用者が、回復まで安心して療養していただくまで、法人事業所と本人を継続してつなぐ役割も果たし始めている。

秋以降は、サービス利用計画の未製作者全てを網羅するという尼崎市からの要請にこたえ、法人内サービス管理責任者にも協力をいただき、50%以上の計画を立てることができた。(残りも6月までに完成する予定である。)

今後は、ニーズに基づくサービス利用をスムーズに行えるよう本人を中心に、行政・地域の事業所・家族とのネットワークを強化していきたい。

計画作成 ・モニタリング 44人  
一般相談 3人

武庫川園新規利用につながった利用者 3人